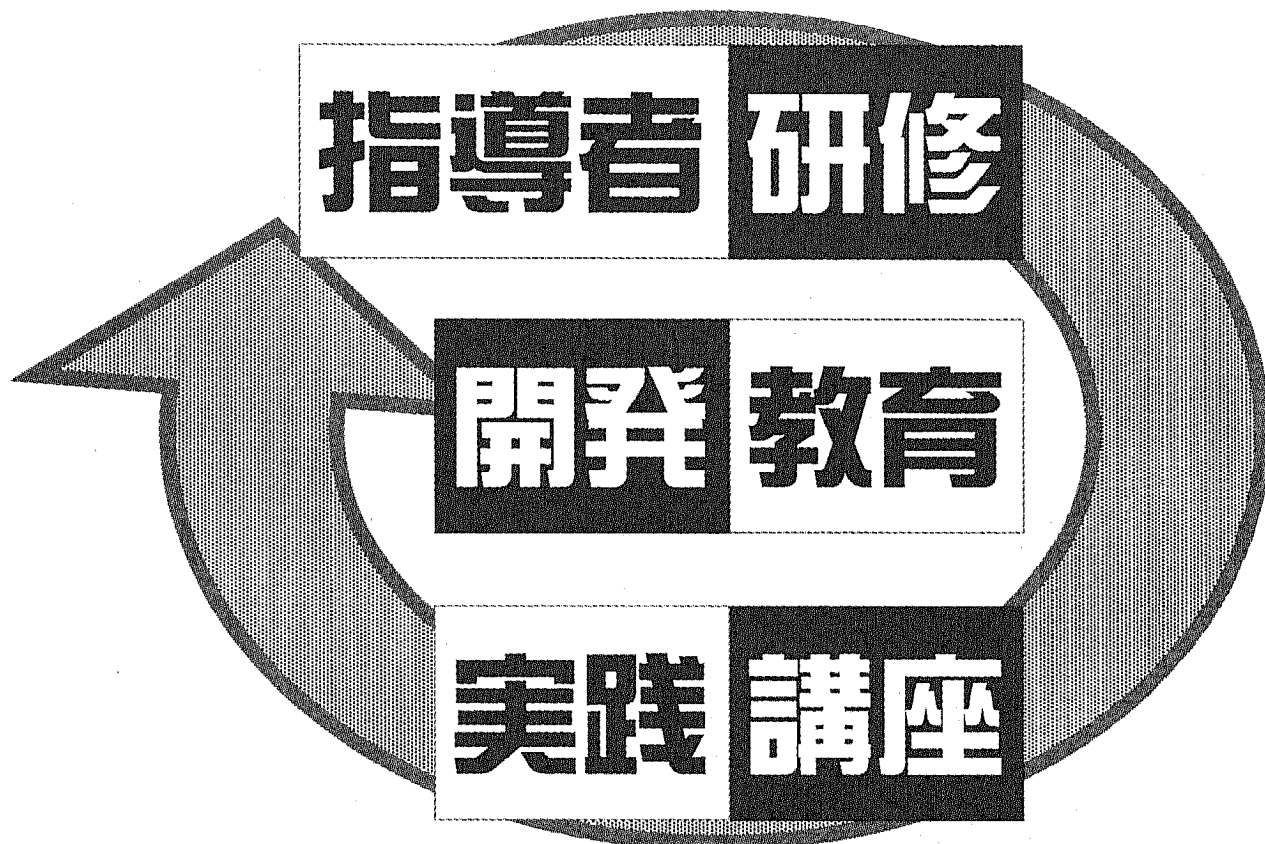


平成15年度



報告書

JICA LIBRARY



1209164 [1]

平成16年3月

独立行政法人国際協力機構 中部国際センター
(JICA中部)

中部七

JR

03-05



1209164 [1]

序 文

この報告書は、平成15年度に当センター（JICA中部）が、現場の先生、NPO／NGO、自治体、青年海外協力隊、市民の方々等を対象に実施した1泊2日3回実施の開発教育指導者研修とその指導者研修参加者にファシリテーター・企画者として協力してもらった東海4県で1日ずつ実施の開発教育実践講座の記録をまとめたものです。

本研修・講座は、人類共通の課題を扱う国際理解教育・開発教育を実践する担い手を地域で一人でも増やすことを目的に、当センターの開発教育支援事業の一つとして実施しました。

平成14年度「総合学習」が導入され、平成15年の高等学校の教育現場においても、同授業が始まった中で、国際理解教育・開発教育への関心は今後ますます高まることが予想されます。当センターとしましては、地域の1団体として、ニーズをしっかりと把握したうえで内容の改善を図りながら、平成16年度も同様の講座を引き続き実施していきたいと考えております。この報告書が各地で開発教育を実践されているの方々のご参考になれば幸いです。

本研修・講座の実施に際し、お忙しい中協力いただいた関係者の皆様にお礼を申し上げますと同時に、地域での担い手づくりのため、今後とも当機構の開発教育支援事業に一層のご理解、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

2004年3月

独立行政法人国際協力機構
中部国際センター（JICA中部）

所長 荻原 久義

目次

<概要／成果と課題>

I. 研修・講座の概要	1
1. 全体のプロセスデザイン	1
2. 指導者研修の概要	2
(1) 指導者研修の包括的ねらい	2
(2) 国際理解教育・開発教育について	2
(3) 第1回研修の概要	4
(4) 第2回研修の概要	6
(5) 第3回研修の概要	8
3. 実践講座の概要	10
(1) 愛知県実践講座の概要	10
(2) 岐阜県実践講座の概要	12
(3) 三重県実践講座の概要	14
(4) 静岡県実践講座の概要	16
II. 研修・講座の成果と課題	18
1. 全体総括	18
(1) 開発教育指導者研修	18
(2) 開発教育指導者研修その後と各県での開発教育実践講座	18
(3) 来年度に向けて	19
2. 指導者研修の成果と課題	21
(1) 主体的な学びあい	21
(2) 伝える・聴く	23
(3) グループワークへの貢献	24
(4) 次につながる自分自身の課題の発見	26
(5) 参加の目的の達成度	28
(6) よかったこと／嬉しかったこと	30
(7) 参加を通じての自分の変化	31
(8) これから実行しようと思うこと	32
(9) 今回の研修の改善点・追加点への提案	33
(10) 今後活かすこと	34

(11) ファシリテーターとしての参画意向	35
(12) 次年度の指導者研修への提案	35
(13) 参加した理由・動機	38
3. 実践講座の成果と課題	40
(1) 愛知県実践講座	40
(2) 岐阜県実践講座	41
(3) 三重県実践講座	41
(4) 静岡県実践講座	42

〈指導者研修〉

III. 第1回 開発教育指導者研修の記録	45
1. 第1回研修の概要	45
2. セッション1：私をふりかえり 他者から学ぶ	46
3. セッション2：コミュニケーションをふりかえる	51
4. セッション3：社会をふりかえる 教育をふりかえる	54
5. 第1回ふりかえりシート	59
IV. 第2回 開発教育指導者研修の記録	66
1. 第2回研修の概要	66
2. セッション1：導入	67
3. セッション2：豊かさと貧しさのふりかえる流れのあるプログラム体験	68
4. セッション3：国際理解教育・開発教育の可能性	76
5. 第2回ふりかえりシート	83
V. 第3回 開発教育指導者研修の記録	89
1. 第3回研修の概要	89
2. セッション1：導入	90
3. セッション2：プログラムづくり	92
4. セッション3：プログラム発表！そして次へのステップへ	94
■ グループ1：「Talanoa (タラノア)」	94
■ グループ2：「ほんとにやるぞ〜チーム」	98
■ グループ3：「ありがたや」	101
■ グループ4：「茶〜美」	104
■ グループ5：「Coracao」	107

■ グループ6：「じゃい子 Jaico! ジャ行こ!」	111
■ グループ7：「山中派」	115

＜実践講座＞

VI. 愛知県開発教育実践講座の記録	123
1. 愛知県実践講座の開催記録	123
2. 愛知県実践講座のふりかえりシート	130
3. 愛知県実践講座準備会の打合せ経過	133
4. 愛知県実践講座の資料	134
VII. 岐阜県開発教育実践講座の記録	138
1. 岐阜県実践講座の開催記録	138
2. 岐阜県実践講座のふりかえりシート	144
3. 岐阜県実践講座準備会の打合せ経過	144
4. 岐阜県実践講座の資料	145
VIII. 三重県開発教育実践講座の記録	170
1. 三重県実践講座の開催記録	170
2. 三重県実践講座のふりかえりシート	176
3. 三重県実践講座準備会の打合せ経過	179
4. 三重県実践講座の資料	180
IX. 静岡県開発教育実践講座の記録	196
1. 静岡県実践講座の開催記録	196
2. 静岡県実践講座のふりかえりシート	199
3. 静岡県実践講座準備会の打合せ経過	207
4. 静岡県実践講座の資料	207

＜JICA中部＞

X. JICA中部の関連支援事業	211
1. 「JICA TIME」でのパワーポイント	211
2. JICA中部の国際理解教育・開発教育支援事業	214

概要 成果と課題

- I. 研修・講座の概要
- II. 研修・講座の成果と課題

1. 研修・講座の概要

1 研修・講座
の概要

1 全体のプロセスデザイン

年度を通じた全体のプロセスデザインとして、開発教育指導者研修（以下「指導者研修」という）と開発教育実践講座（以下「実践講座」という）を有機的に連携させ、指導者研修の受講者がファシリテーター*となって実践講座を行い、さらに実践講座の受講者が翌年度の指導者研修、各種団体の研修などへ参加するというように、開発教育・国際理解教育の推進者を循環的に育成することをねらいとしました。

ステージ1：(6月～9月) 開発教育指導者研修

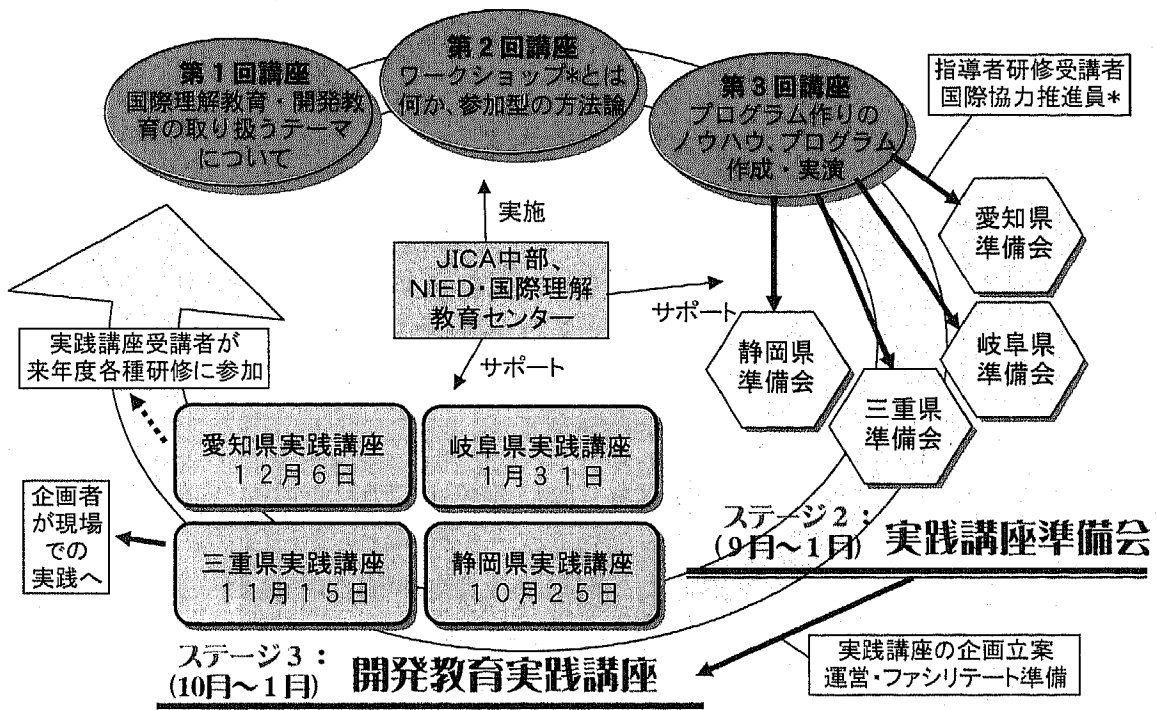


図. 平成15年度開発教育指導者研修・開発教育実践講座の循環図

* ファシリテーター：ワークショップを進行する人。活性化させる人。話し合いの交通整理をする議長役だけではなく、話し合いの素材になるものを用意し、時間管理を行いながら全体を進行する。
 * ワークショップ：もともと作業場を表す英語。対等な立場で集まった人々が一つのテーマについて考えを深め合い、共同で何かを作り出す作業と場。参加者自身が自らの知識や体験をもって積極的に関わるスタイル。ひとり一人がじぶんなりの意見と答えを持ち、それぞれの意見を尊重しあいながらも共通のものを作り上げようとするところ。
 * 国際協力推進員：青年海外協力隊または日系社会青年ボランティアのOBまたはOGで、ボランティア事業や開発教育といった各種のJICA事業の各都道府県の総合窓口として、海外ボランティアの経験を活かして活躍している。JICA中部管轄においては、東海4県(静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)及び名古屋市の国際交流財団法人にJICAの国際協力推進員が配置されている。

開発教育・国際理解教育の推進者を育成する循環の各ステージの概要は次のとおりです。

◆ステージ1：開発教育指導者研修

対象は、東海4県の教育関係者及び開発教育・国際理解教育に関心がある人で、学校での国際理解・開発教育の実践、JICAや市民団体等の講座・研修、ワークショップで開発教育・国際理解教育を今後実践する予定のある人としてしました。(定員40名：中級者向け)

◆ステージ2：開発教育実践講座の準備会

指導者研修受講者、各県の国際協力推進員が中心となり、東海4県それぞれで、実践講座の企画立案、当日の運営及びファシリテートに向けた準備を行いました。

◆ステージ3：開発教育実践講座

対象は、東海4県の教育関係者及び開発教育・国際理解教育に関心がある人で、これから学校等で国際理解・開発教育に取り組もうとしている人としてしました(定員30名：初級者向け)。

2

指導者研修の概要

計3回6日間を通じた指導者研修の包括的なねらいと各回のプログラムの概要、基本的事項としての開発教育・国際理解教育についての定義について、以下に示します。

(1) 指導者研修の包括的ねらい

- 開発教育・国際理解教育とは、環境・人権・開発(途上国の低開発/先進国の過剰開発とのギャップまたは人間開発)・多文化共生・ジェンダー・平和などの今日的地球的課題を理解し、それらの課題を参加と対話を通して解決し、多様な人々と持続可能な未来を築く主体を育む教育である事を理解する。
- 過去50年の社会の移り変わりをふりかえる事で、私たちの社会では、社会の姿と教育とが互いに密接に関連しあい影響しあっている事を確認する。私たちの望む共通の社会の未来像を共有し、そのために、開発教育・国際理解教育という教育を通してできることを具体的に考える。(教育の共通基盤づくり)
- 体験を経験につなぐ、気づきを行動へとつなぐ参加型の方法論やプログラムの作り方を理解し、自らも参加型で進める開発教育・国際理解教育のプログラムを実際に作ってみる。
- ファシリテーターの役目とファシリテーションのポイントを、体験を通じて理解する。
- 参加者それぞれが、次へつながる具体的なプログラムと目標と効力感を持ち帰る。

(2) 開発教育・国際理解教育について

◆ 開発教育とは？

「開発」とは、「(中にある力が) 開かれ、出て行くこと。development: de, envelop (封筒を開き中身を出すこと)。先進国も途上国も、「開発のための教育＝開発教育」は必要です。

開発教育は、私たち一人ひとりが、開発をめぐるさまざまな問題を理解し、望ましい開発のあり方を考え、共に生きることでできる公正な地球社会づくりに参加することをねらいとした教育活動です。

そのために、開発教育は、多様性の尊重、開発問題の現状と原因の理解、地球的諸課題の関連性の理解、世界と私たちのつながりへの気づき、参加できる能力と態度を養うことをめざしています。

(『「開発教育」ってなあに？ 開発教育Q&A集』(特活) 開発教育協会より)

◆ 国際理解教育とは？

国際理解教育は、自分との関わりにおいて地球の課題(人権・環境・開発・異文化理解・平和・未来など)を包括的に理解し、知識だけではなく、共通の未来・公正な地球社会作りに「参加する技術」「参加する態度」を養おうという総合的な教育活動です。知識は大切ですが、それ自体が社会に対して責任ある行動を生み出すものではありません。知識そのものよりも得た知識や体験から気付いたことを、どのように活かすことができるかを共同作業で探ることに重点を置いています。そのために、一方通行ではなく双方向の対話形式・参加型(ワークショップ)という形で、お互いの知識や経験、気付きから学び合うことを重視します。ワークショップは、対等な関係で集まった人々が共通のテーマで考えを深め合い、気付きを行動へつなぐプロセスを提供します。

近年、学校教育においても、社会教育においても、参加体験型学習(研修)への関心が高まっていますが、参加して学ぶことの良さは第一に「楽しく学べる」ということです。人は「楽しい」と感じる、信頼に満ちた自由な雰囲気の中で、最も多くに気付き学べると言われています。また「自ら考える」「協力して創り出す」ことを繰り返し体験する中で、コミュニケーションの力、分析的な思考力、合意形成能力、課題解決への意欲といったものが、少しずつ養われることをねらいとしています。いまある課題を解決しながら持続可能な未来を共に築くためには、一人ひとりの責任ある参加が不可欠だと考えるからです。

(「(特活) NIED・国際理解教育センターちらし」より)

◆ 開発教育と国際理解教育

以上のように、開発教育も国際理解教育も、地球的規模の人類共通の課題に対して、知識理解だけでなく、自分とのつながりへの気づき、課題解決に向けた主体の育成といったところまでめざした教育活動であり、活動の出発点は違うけれども、同じ目的・ねらいをもった教育といえます。

(3) 第1回研修の概要◆ **日時・場所**

- 日時：(1日目) 平成15年5月31日(土) 13時～18時
(2日目) " 6月1日(日) 9時30分～12時30分
- 場所：JICA中部講堂
- 参加者数：54人

◆ **テーマ**

「WHAT's 開発教育・国際理解教育? 自己理解-相互理解-共通理解」

◆ **ねらい**

- コミュニケーションとは何かを理解し、何のためのコミュニケーションかを共有確認する
- 今までの自分のコミュニケーションを振り返りながら、相互理解を進め信頼の人間関係を築くためには何が大切なのか、コミュニケーションスキルという視点から具体的に考える
- 社会と教育の過去をふりかえり、現在を確認し、望む未来の姿を共有する
- 望む共通の未来を実現するために、開発教育・国際理解教育を通して私たちのできること/したいことを具体的に考え持ち帰る(教育の共通基盤づくり)

◆ **プログラム**★**セッション1：私をふりかえり 他者から学ぶ**

- 0 所長あいさつ
- 1 研修全体のねらいと第1回のねらいの説明
- 2 アイスブレイキング 知り合おう!
- 3 「わたし」との対話 「あなた」との対話 10の私とインタビューゲーム

★**セッション2：コミュニケーションをふりかえる**

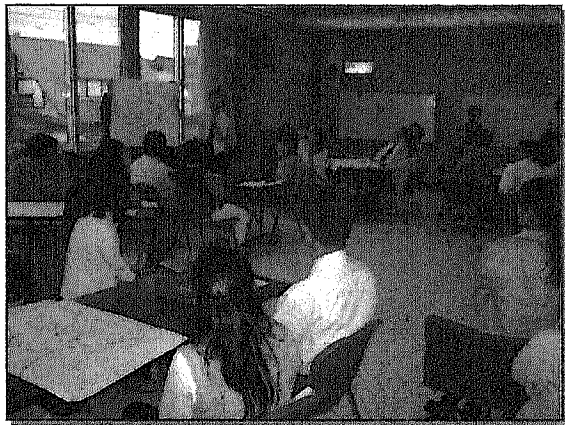
- 1 ガリバー旅行記続編「コミュニケーションのない国へ」
- 2 コミュニケーションは何のため?
- 3 コミュニケーションについてわかったことをまとめよう

★**セッション3：社会をふりかえる 教育をふりかえる**

- 0 JICA TIME 「気づく」
- 1 考えるための準備体操と研修のねらいの確認
- 2 年表づくり 社会と教育と自分を振り返る
- 3 未来を考える 20年後の未来～地域・地球はどうなっているといいのか?
- 4 20年後の望む未来を実現するために大切だと思うこと!



▲ すべての人が対等となる車座から



▲ 「コミュニケーションを絵にしてみよう」発表



▲ アイスブレイキング (自己紹介)



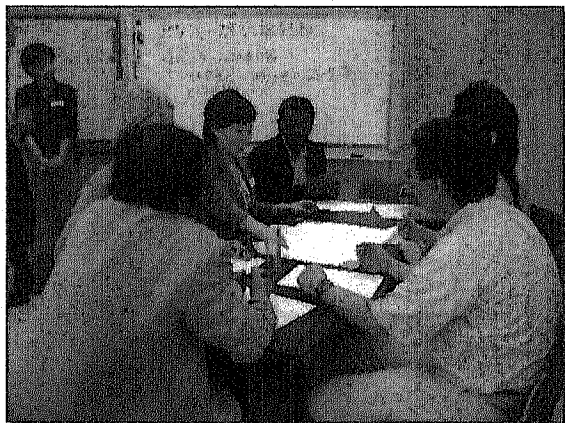
▲ JICA TIME 民族衣装で発表



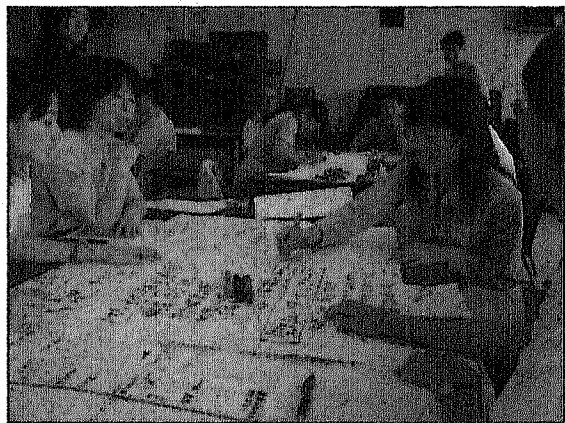
▲ インタビューゲーム



▲ 社会と教育と自分の年表をグループで共有



▲ ガリバー旅行記-続編づくり



▲ 20年後の望む未来について話し合う

(4) 第2回研修の概要◆ **日時・場所**

- 日時：(1日目) 平成15年7月5日(土) 13時～18時
(2日目) " 7月6日(日) 9時30分～12時30分
- 場所：JICA中部講堂
- 参加者数：49人

◆ **テーマ**

「体験を経験に 気づきを築きにつなぐ参加型の方法論」

◆ **ねらい**

- 「豊かさ」「貧しさ」という視点から「開発」について考える 流れのあるプログラムを体験し、最終回のプログラム作りの参考にする
- 「豊かさとは」「貧しさとは」についての認識を深め、「開発」の意味を考える。貧しさを減らしていくために現在の日本社会の中で、人々が身につけたい知識、態度・価値、感情(開発すべき知識、態度・価値、感情)についてみんなで考える。

◆ **プログラム**

★セッション1：導入

- 1 前回のふりかえりと今回のねらい確認
- 2 自己紹介

★セッション2：豊かさと貧しさのふりかえる流れのあるプログラム体験

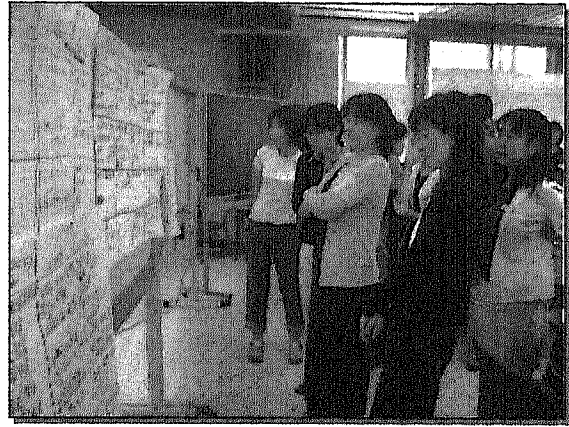
- 1 アイスブレイキング：部屋の四隅
- 2 「豊かだ」「貧しい」とは？ 「豊かさ」と「貧しさ」との関係性
- 3 貧しさはどうして生まれるのだろうか？
～ある村のコーヒー栽培テーマにしたシミュレーションゲーム～
- 4 貧しさはどうすればなくなるだろうか？ 開発の意味
- 5 日本人が今まで身につけてきたものと今後身につけたいもの
- 6 ふりかえり

★セッション3：開発教育・国際理解教育の可能性

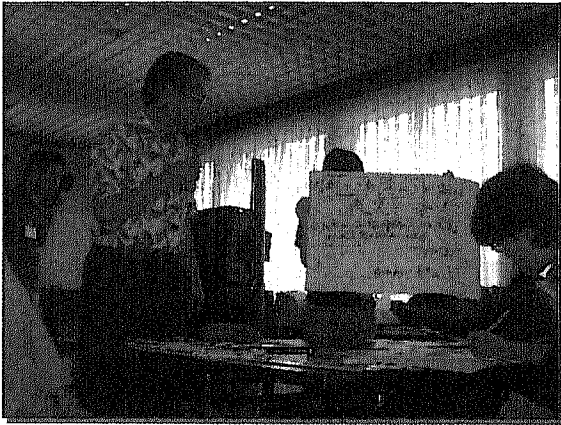
- 0 JICA TIME 「つなぐ」
- 1 前日のふりかえりと本日のねらいの確認
- 2 参加型の方法は何のため？ 参加型・講義型の比較(メリット・デメリット)
- 3 参加型の手法
- 4 開発教育・国際理解教育は、何のための教育か？



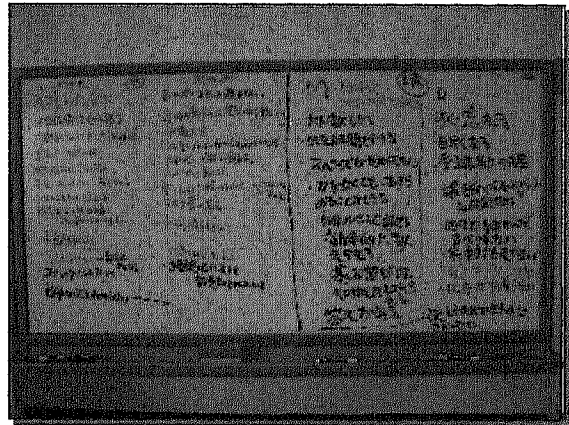
▲ 豊かさ、貧しさについてカードを使って整理



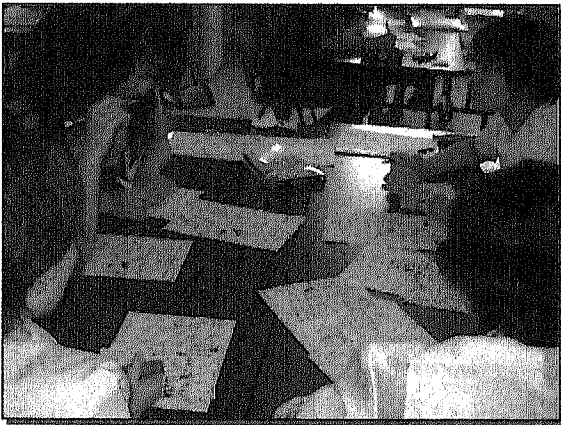
▲ 「今後身につけたいこと」などの共有



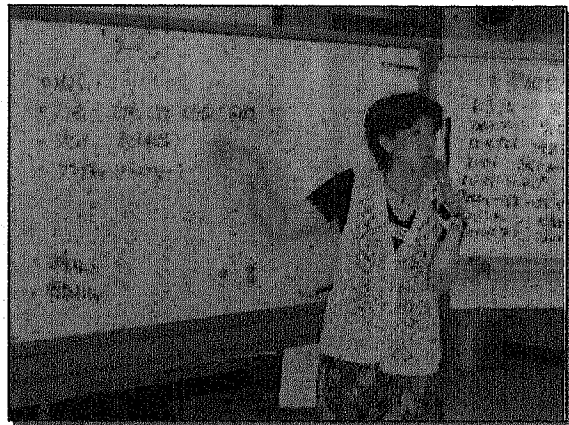
▲ そこからいえることをまとめて発表



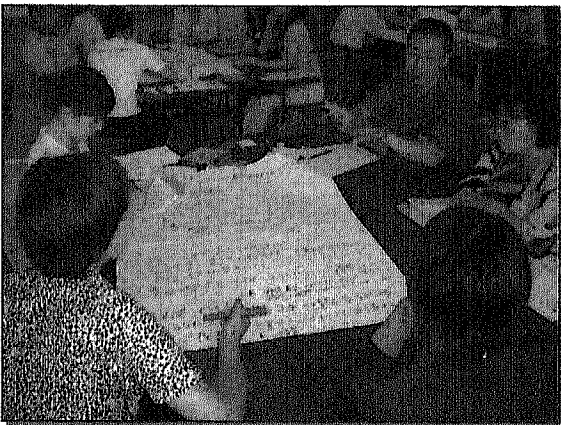
▲ 参加型と講義型のメリット・デメリットのまとめ



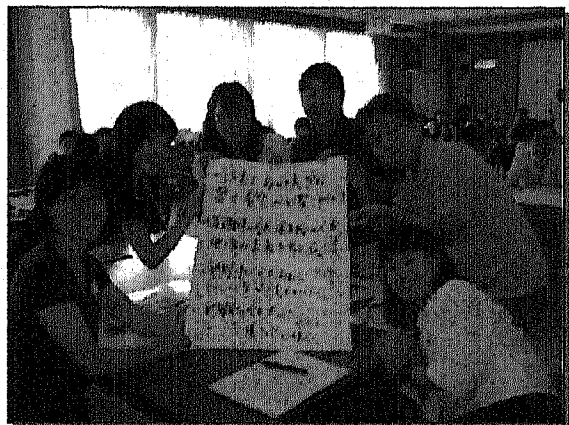
▲ シミュレーションゲーム



▲ ファシリテーター山中令子氏



▲ ゲームをしてみてわかったことを話し合う



▲ 開発教育・国際理解教育は何のための教育か？

(5) 第3回研修の概要**◆ 日時・場所**

- 日時：(1日目) 平成15年9月6日(土) 13時～18時
(2日目) 9月7日(日) 9時30分～15時
- 場所：JICA中部講堂
- 参加者数：49人

◆ テーマ

「ワークショップとファシリテーター プログラムを作ってみよう！」

◆ ねらい

- 体験を経験につなぐ、気づきを行動へとつなぐ参加型の方法論やプログラムの作り方を理解し、自らも参加型で進める開発教育・国際理解教育のプログラムを実際に作ってみる
- 参加者それぞれが、次へつながる具体的な目標とプログラムと効力感を持ち帰る
- ファシリテーターの役目とファシリテーションのポイントを、体験を通じて理解する

◆ プログラム**★セッション1：導入**

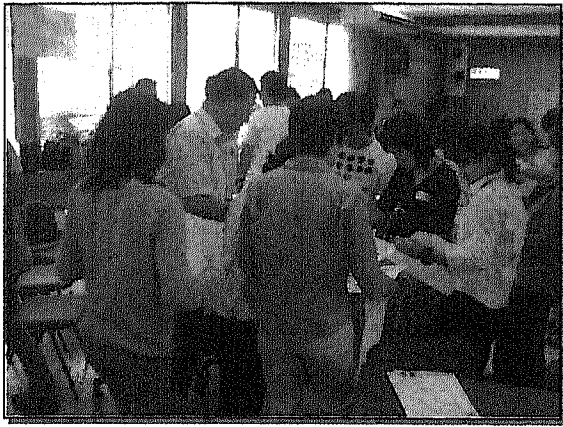
- 0 JICA TIME 「築く」
- 1 本日のねらいの確認
- 2 今までのふりかえり わかったこと・もっと知りたいこと

★セッション2：参加型のプログラムづくり

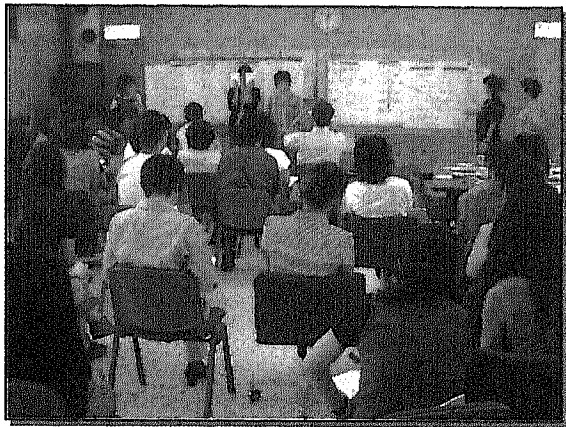
- 1 参加型のプログラムづくりの準備
- 2 プログラムを作ろう！(7つのグループごとに)

★セッション3：プログラム発表！そして次へのステップへ

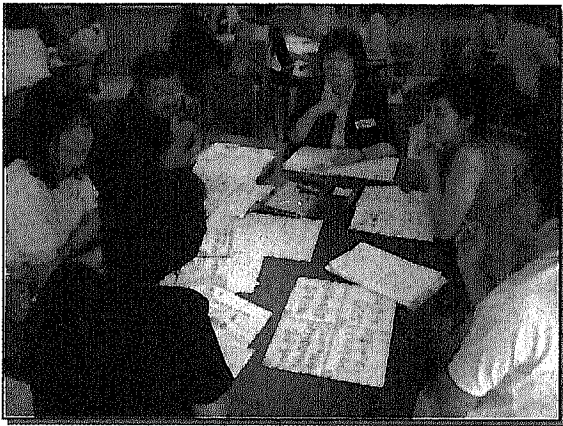
- 1 プログラムづくりの続き
- 2 プログラム発表会&提案会
- 3 ファシリテーターにとって大切なこと
- 4 あなただけにラブレター
- 5 「今日から私が実行しようと思うこと」宣言
- 6 全体ふりかえり



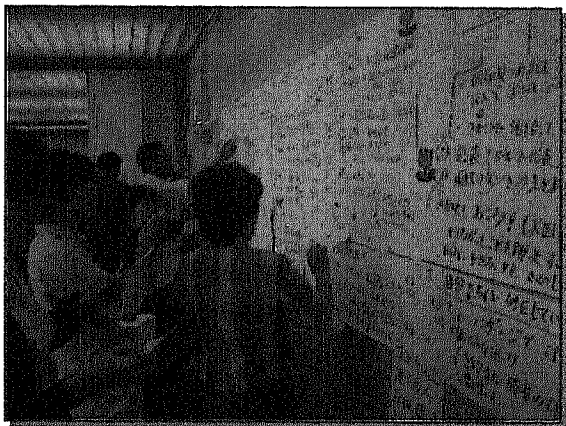
▲ 同じようなテーマの人を探してグループづくり



▲ プログラムの発表



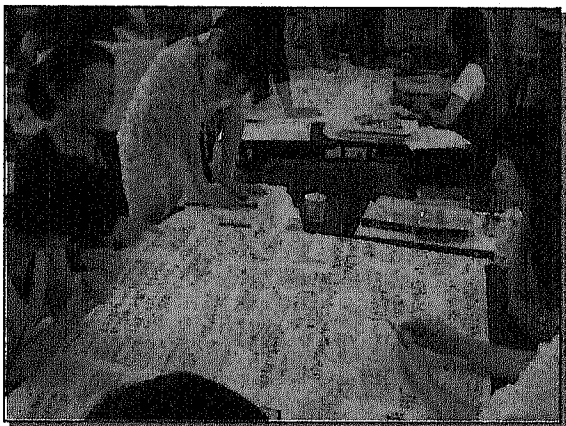
▲ プログラムのねらいを話し合う①



▲ プログラムに対する提案カードを貼り付ける



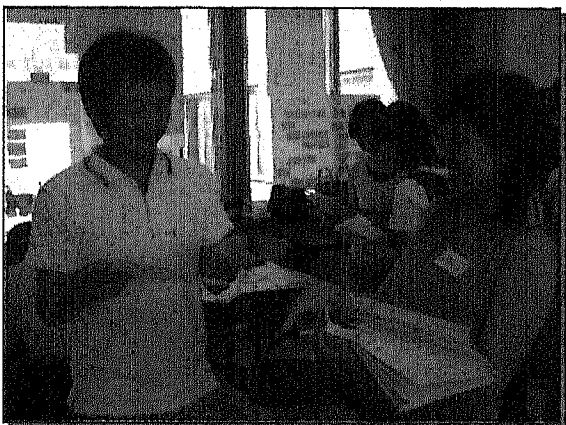
▲ プログラムのねらいを話し合う②



▲ 提案されたことを基に改善点を話し合う



▲ 2日目も引き続きプログラムづくり



▲ 今日から実行しようと思うことを宣言して回る